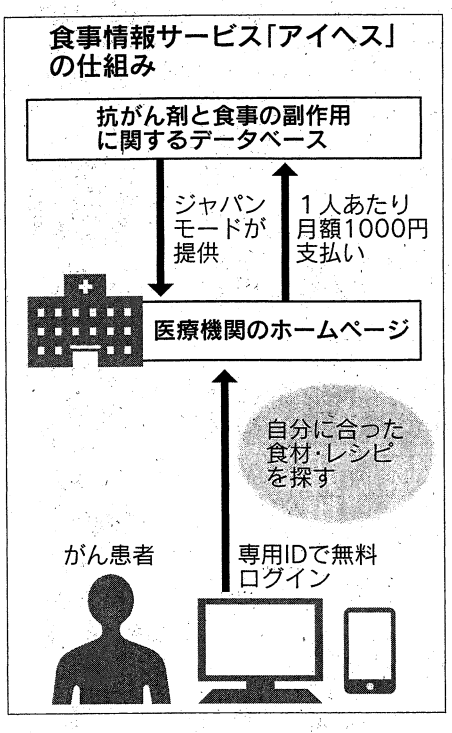
がん患者に安心レシピ

薬の副作用ない食事検索

ジャパンモード

医療機関に導入促す

医療関連ベンチャーのジャパンモード（東京・足立、保科孝社長）は20日、抗がん剤を利用している患者向けの食事情報サービスを始める。インターネットで、副作用を招く食材や安心して食べられる料理レシピを検索できる。食事管理が重要な胃がんや大腸がんなどを想定してレシピは半年後に100種類にする計画で、医療機関に導入を促す。



サービス「アイヘス」はジャパンモードと情報システムのミツイワが販売する。開発には管理栄養士や薬剤師を抱える城西大学が協力する。

患者は医療機関のホームページを経由してアイヘスのサイトを訪れる。パソコン、スマートフォン、タブレット（多機能携帯端末）を使い、専用IDによって無料でログインできる。

患者は自分が利用している薬の名前を入れると、副作用を呼び起こす可能性のある食材が表示される。例えば、抗がん剤「アキシチニブ」を使う患者はグレープフルーツの成分で下痢や高血圧を起こす恐れがある。逆に食材の名前を入力すると、副作用の恐れがある薬が示される。

検索できるレシピは、城西大学で管理栄養士を目指す生徒のアイデアをもとに教授らが吟味してアイヘスに登録する。まず数十種類で始める。抗がん剤と食材との副作用の関係を含め、検索できるデータはクラウドで管理する。

ジャパンモードによると従来は、がん患者が主治医などに食事面の相談をしても明確なアドバイスを得られないケースがあったという。入院中は食事の管理を受けられるが、退院後は情報を得にくい。

ジャパンモードはサービス開始から半年で1万カ所への導入を目指している。このなかには歯科医院も多く含んでいる。抗がん剤を使うと、副作用として口の中が乾燥したり口内炎ができたりすることから抗がん剤の利用者の多くが歯科医に通院しているためだ。

利用料は1人当たり月1000円程度を想定。医療機関が負担する。人工知能（AI）をクラウドに搭載する構想があり、管理栄養士に代わってAIが副作用などの情報を伝える。

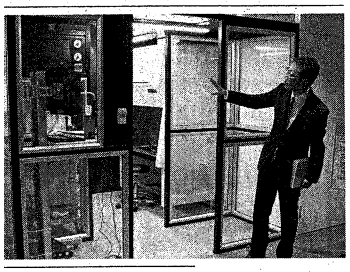
ジャパンモードは2014年設立。医薬品や医療機器の臨床開発を支援するエスアールディ（東京・中央、田沢博実社長）などが出資している。

（薬袋大輝）

細胞の自動培養で協力

カネカやテルモ　導入費を9割削減

カネカやテルモなど4社は14日、再生医療向けの自動細胞培養設備を発雄社長）で、川崎市で同日、発表会を開いた。販売を担う池田理化戦略営



設備のスペースを従来の4分の1程度に抑えることができる（14日、川崎市）

に抑えられる。再生医療を実施する病院やベンチャーから2018年度に

まず安定培養するシステムと、最終工程で余分なたんぱく質などを洗い流す機器はカネカが提供した。中間工程の細胞増殖スに機器を納め、一連の細胞培養工程を自動化する。

2人分の細胞を培養できる設備では、従来100平方メートル程度のスペースと数億円の費用が必要だったが、今回の設備では25平方メートル程度、8000状態で組み合わせられたことが主因だ。3人程度必要な培養担当者も1人で済む。

再生医療は患者本人や他人から取り出して培養した細胞を移植し、けがや病気によって傷ついた臓器や免疫機能を回復さ

漢方「中国でNo.1めざす」

ツムラ

10年後に売上高1700億円

漢方薬最大手のツムラは14日、中国の伝統薬で日本の漢方薬にあたる「中薬」を中国で製造・販売し、2028年3月期に100億元（約1700億円）の売上高を目指すと発表した。同社は17年に中国保険大手の中国平安保険グループと提携し、中国平安保険が株式の10%超を持つ大株主となった。18年4月にツムラが過半を出資して合弁会社を設立、事業を広げる。

ツムラは中国での現地調達や分析の体制を強化し、ブランド浸透を目指す（中国の生薬農家）

ツムラ同日、東者会見る中薬ドを目指社は日本8割の国事業は数千万円売上高1た目標は の提携さを物語

中国平クチェー師が登録インの健ども実施含め6千1日の開にのぼる で合弁会る。合弁薬をお渡「刻み生加藤社が持つ力量にお データや

結核の遺伝子

アークレイ

医療機器大手のアークレイ（京都市、松田猛社長）は結核菌のDNAを検出する遺伝子解析装置